
とある科学の黒光物質《ブラックマター》

遊才 サクマ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある科学の黒光物質
ブラックマター

【NZコード】

N4618Z

【作者名】

遊才 サクマ

【あらすじ】

学園都市には7人のレベル5がいる。しかし他にもう一人、闇で孤独に生きてきたレベル5がいた。彼の名は…てんじょううつぱや天上翼。科学と天上が交差する時物語は始まる！！書きたくなつたので書いてみました。文章の構成力が皆無ですがどうぞよろしくお願ひします。

人物紹介

人物紹介

・天^{てん}上^{じょう} 翼^{つばさ} レベル5 14才 A型

～容姿～

- ・肩まで伸びた黒髪と黒い瞳を持つ純粋な日本人。顔は整つておりイケメンの部類に入る。

～生い立ち～

- ・3才で両親に学園都市に捨てられて置き去りとなり各地の研究施設でさまざまな実験をさせられた。5才の時に未元物質^{ダイクマター}発現計画^{はつげんけいかく}に参加し唯一生き残り、未元物質^{ダイクマター}よりはるかに劣る能力である黒光^{ブラック}を発現。実験を行っていた研究所を発現した能力で破壊し、それから暗部に身を置いている。

～性格～

- ・主に決められたターゲットのみを抹殺するように心がけている。但し、「第2位の失敗作」と言わるとキレになりふり構わず相手を殺す。ちなみに実験の影響でキレると口調が第2位そつくりになる。

～身体能力～

- ・自らの能力だけに頼ることなく体を鍛えている。さらに多少の武術もできるのでそこらのチンピラ程度なら能力を使うこともなく勝つことができる。

- しかし、実験の影響で目がほとんど見えていないため、相手を倒す時は主に聴覚に頼っている。そのせいか聴力は並の人間の2・3

倍はある。

能力 → 黒光物質^{ブラックマター}

・この世には存在していない物質である黒光物質を作り出し操ることができる。能力の発動時には背中から6枚の黒翼^{ブラックマター}が出現する。また、ほかの物体に黒光物質^{ブラックマター}を装着させることもできる。

人物紹介（後書き）

遊才サクマと言つ若造です。なんか小説が書きたくなつたので大好きなどあるを書こうと思ひます。あと自分は学生なので更新が遅くなると思います。

任務

学園都市のとある路地裏……

「ハア、ハア……。畜生！な、何で俺らがこんな目にあわなくちゃならねーんだよー！」

数分前……、

今日もいつもと同じように仲間とそこのらの氣の弱そうな学生を見つけて財布を奪っていた。今日もいつもと同じように過ぎていくと思っていたがそれは間違いだつた。財布を奪い終わりこれからどこかへ行こうとした時であつた、ふと後ろを見てみると少年が立つていたのだ。その少年の第一印象は見た目は普通の中学生と言つた感じであつたが、どことなく不気味な雰囲気を漂わせている感じだつた。俺達5人が少年を見ていると、少年は俺ら全員が自分を見ているのを確認する様な動作を取つた後唐突にこう言つてきたのだ。

「まあ悪いけど……殺すぜ。」

その一言が言われた瞬間に俺の左に居た奴が消えた。そう表現する以外なかつた。少年の手から黒い物が飛び出したかと思つたら、左に居た奴は消えた……いや正確に言つと殺されたのだ。

「ひ、ひーーー！」

「おいおい、挨拶程度でびびつてんじゃねえよ。それでもお前ら不良か？」

「ば、バケモンだー逃げろーー！」

誰かがそう言つて全員が急いで逃げ出した。しかし少年に対して背を向けたことが間違いだった。少し走り出すのが遅かつた1人がすぐに戦の格好の餌食となつた。

「じゃ、あばよ。」

「や、やめ……。」

ギュイイイイイイイイン……

少年は右手をそいつに向けて、先ほどの黒い物質を集めていた。集め終わつた瞬間に右手にあつたソレは放たれた。

「ブラックレーザー
黒光光線」

ド――――――ン――

ものすごい轟音の後に黒い光線が放たれたところを見ると地面がえぐられてい、その周りに肉片と大量の血がどんでいた。

「ハハツ！ さて次はどうが死ぬ？」

「く、くそが～～！～」

1人が勇敢にも少年に刃物をむけながら向かつていった。しかし、勝負は瞬く間に決着がついた。

「いいね。命知らずで向かつてくるバカ野郎が俺が1番好きなタイプだ。お礼と言つちやあ何だが……全力で相手してやるぜ……」

すると、少年の背中から巨大な何かが出てきた。よく見るとそれは六枚の黒い翼であった。その姿は威厳に満ちていると同時に恐怖を感じさせるようであり、たぶんこの姿を見たもの全員が一いつ言いつだりと思つた。

「あ、惡魔！」

「あー。悪魔みてえだつてのは自覚してる。」

そう言つと少年はその黒い翼をはためかせ空を飛んだ。そして少しひに向かつて六枚の翼を開いた。

「喜べよ。そんじやセヒの不良のお前らが俺の黒翼を見れた」とをなー！」

また、少年が黒い物質を集め始めたが今回は手ではなく、六枚の翼の一枚一枚に集めていた。しかも先ほどの攻撃などがかわいく見えるくらい1つ1つが巨大になっていた。

「終わりだ。」
黒翼の光線 ブラックフェザーレーザー

放たれた攻撃は路地裏を木つ端微塵に破壊した。少年に向かつていた奴は言うまでもなく攻撃を食らい、俺ともう一人も爆風で体が宙に浮き地面にたたきつけられた。

「グアツ！」

地面の落下のせいで体を強打してうめき声がでた。心の中で「クソ！」と思いながら体を起こしたら少年が田の前に立っていた。

「あとは、お前ら二人だけだな。」

「く、くわ。こんなところで死ねるか…」

俺はその瞬間走り出して逃げ出した。仲間が一人いたがそんな悠長なことを言つていられる場合ではなかつた。

「逃げんのか。おもしれえ！……とその前にお前はここで終わりだ。」

「や、やめてくれーた、たの…。」

グチャ！

後ろは振り向かなかつたがその音が聞こえた瞬間そこに倒れていた奴は死んだと確信できた。

「ハア、ハア……。畜生ーな、何で俺らがこんな田にあわなくちゃならねーんだよー」

「おいおい、そんな風に悲しくなるなって。ちやんとあの世に送りやるからよー。」

刹那、少年が俺のすぐ隣にきていた。そうして黒い物質を手に纏つた状態で俺の腹をおもいつきり殴ってきた。

「ガ、ガフッ！！」

殴られて俺はその場に崩れ落ちた。もはや、この少年から逃げることはできなくなつた。

「お前で最後だ。まあ、最後まで生き残つた報酬として何でも一つ俺に質問してもいいぜ。なんかあるか？」

「あ、おまえのその能力は何なんだよ。」

「こひめ、学園都市。超能力が実在する街だ。この街でこんなことが出来るのは超能力者以外に考えられなかつたからだ。」

「普通は他人に俺の能力を話すことはないが冥土の土産に教えてやるよ。俺の能力は黒光物質^{ブラックマター}。この世には存在しない黒光物質^{ブラックマター}つて言つてのはダイヤモンドを凌駕する硬度を持つていてる上に融点とか沸点とかを持つてなく決して溶けることのない物質だ。まあ、俺の意思で固体の状態にしたり、さつきのレーザーみたいな状態にすることはできるんだけどな。」

「そ、そんな能力が……、」

ソレが本当ならば自分はこの少年には到底勝つことができなこと思つた。

「ま、話は終わりだ。じゃバイバイ。」

その言葉を言い終わつた瞬間に少年から黒い光線が放たれた。

「く、くつや—————！」

――――――――

『ご苦労だつた。黒光物質ブラックマターと云いたい所だが……、ふざけるなよ！
あんな風に能力を使うバカがどこに居る！あそこの近くでは路地裏
から轟音クラッシュが聞こえてきたという事でアンチスキルが動きかけたんだ
ぞ！』

「で、でも動かなかつたんでしょう？」

『上が直々にアンチスキルを抑えたおかげでな！お前という奴は暗部に居ながら何をしている！罰としてもう1件別の依頼をして來い。

1

「えへ！ やだ。」

『やだじゃない！依頼の内容と場所はすでに送信したから、今日中に片付けるよつ。』

フジ・シーシー

「はあ、不幸だなあ！」

そう言いながら天上翼は肩を落としていた。

とある寮

「ヘクシュン!!」

「うへ、何だとうとう風邪を引いちまつたか。はあ、不幸だ。」

何だと、と風邪を引いたまゝたか
かみじょうとうまく。 そう言いながら上条当麻は肩を落としていた。

任務（後書き）

なんやかんやで書いてみたもののものす、じく下手だなあと思いました。次、いつ投稿できるかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4618z/>

とある科学の黒光物質《ブラックマター》

2011年12月16日23時55分発行